

放送アーカイブ研究におけるメタデータ活用の試み —震災報道アーカイブ研究から—⁽¹⁾

西田 善行*

1. 本稿の目的

かつてテレビは「流しっぱなし」のメディアであり、視聴者は映像として保存する術を持たなかった。家庭用ビデオデッキの普及が進んだ1980年代以降も、テレビ番組、とりわけ再放送やDVDなどによる販売の機会のないニュースやワイドショー、ドキュメンタリーは、視聴者あるいは研究者が選択的に記録した番組を除けば、再び見られる機会はほとんどなかった。そのため、データベースが充実し、記事へのアクセスも容易で長期的な分析が可能となっている新聞に比べ、研究者がテレビでの放送・報道内容の長期的なスパンでの分析、検証は、非常に困難なものであった。

周知の通り、テレビの視聴環境はここ数年で変化している。ビデオ・オン・デマンドのサービスの拡充や、全録機など大容量録画機の増加など、タイムシフト視聴が一層容易なものとなりつつある。国立国会図書館による放送アーカイブ構想も含め、テレビ番組のアーカイブ化は一つの潮流といえる(西田, 2016)。一方でリスクや情報の管理やの立場から自らの情報を収集する企業などに対して、テレビ番組の放送内容についてその情報を提供する企業も存在する。こうした状況は、テレビ番組を研究利用する場合においても重要である。特定のテーマに関する放送内容が、キーワードを利用して探し出すことが可能となったため、これまでであれば見逃されていたような番組での言及についても確認することが可能となった。こうした特性を研究に活かせば、あるテーマに関する報道量の変化やその特性などを分析できる。実際番組データ提供サービスや、文字放送データを利用した研究はすでに行われてきている。とりわけ、2011年の東日本大震災と福島第一原発の事故については、発災当初の放送内容の分析に関してこうしたテキストデータを用いた分析が少なからず見られた(遠藤, 2012 松山, 2013 三浦, 2012 原, 2015 加藤, 2015 稲増・柴内, 2015)⁽²⁾。筆者もまた、およそ5年間に渡り東日本大震災と原発事故に関連するテレビ報道のアーカイブ化と、それを利用した分析を行ってきた(西田, 2015)。これらの研究は、かつて行うことの出来なかった新たなテレビ研究の可能性をもたらしている。それは「テレビは何を伝えているのか」について、メタデータがもたらす膨大な情報から、その全体像を捉えることを可能にしているように見えるからである。

資料としてこうしたデータを取り扱うことについて、問題提起者も含め多くの研究者がその限界について指摘はしているものの、メタデータの性質や特徴について、十分に検討されてきたとはいえない(石田・岩谷, 2012)。企業による番組データの提供サービスは、顧客に対して迅速なデータ提供を行うため、その記述が概略的であり、記述内容等に厳密性を欠く部分があることは否定できない。そのため、データの性質を見極めることなく研究調査に利用することは、調査結果の信頼性

*にしだ よしゆき 法政大学社会学部 兼任講師

を損なうことになりかねない。そもそも従来からテレビ番組の内容分析の困難として指摘されていた通り、文字情報が中心の新聞以上に、テレビ番組は映像や音声、図像、テロップ、音楽など、マルチモダルな記号によって成り立っているのであり、データ記述には何らかの恣意的な選択と言語化が伴うこととなる。

そのため、本稿では、こうした企業が提供する放送番組データを用いて研究すること、そして研究のためのアーカイブを構築することが、どのような意義を持ち、どのような課題があるのか、その方途について議論していきたい。

その議論のたたき台として、まず企業が提供する放送番組データについて、言語計量分析や実際の映像との比較、あるいはサービス提供企業へのヒヤリングなどをもとに、データの特徴を示していく。そして震災報道の研究利用の際、こうしたデータは何を分析でき、何を分析できないのか提示する。

2. メタデータとは何か

議論を始める前にテレビの番組内容の確認の際に用いられている「メタデータ」とはそもそもどういったものなのか整理しておきたい。一般的な定義・理解としては、メタデータとは「データに関するデータ」あるいは「データに関する構造化されたデータ」である（堀池・吉田, 2003 谷口・緑川, 2016）。谷口祥一と緑川信之は人間の学術や芸術、日常記録などの知的活動によって生産された、紙メディアや電子メディア、通信メディアなど何らかのメディア上に体现したものを知識資源と定義し、知識資源自体が組織化された一種のデータと呼びうるものであり、そのデータを組織化したものがメタデータであるとしている（谷口・緑川, 2016）。

メタデータは管理や保存を目的としたもの、記述を目的としたものなど、それを付与する目的によって記述される内容が異なっている（堀池・吉田, 2003）。例えば放送番組にメタデータを付与する場合、放送日時や放送番組のタイトルといった基本的な情報だけでなく、それを保存した媒体の名前やその番号、あるいは所在場所を記載するのは、管理や保存・保管を目的としたデータ項目といえる。一方で放送局がメタデータを付与する場合は、その後の二次利用なども考えて使用した音楽の著作権者や映し出された人の連絡先などが必要となるだろう。つまりメタデータの作成、すなわちデータの組織化・体系化は、それをアーカイブ化する主体の目的・意図によって異なった構造となるということであり、そこから得られる情報・知も異なったものとなるのである。

どのような目的で記載するのであれ、メタデータはデータそのものではなく、データにまつわる二次的な記述物であり、記述には記載者の意図が介在する。そのため、メタデータを何らかの理由でその分析対象とする場合、たとえ新聞データベースのような文字情報を記録したものであっても、厳密な意味ではデータそのものを分析したことにはならない。その意味でメタデータはデータそのものとは異なる自律性を有しているといえる。

そのため、もし本来の分析の対象である知的資源の代わりに、そのメタデータを分析することでその知的資源の一定の傾向を示そうとするのなら、分析対象となるメタデータがどのような意図をもって、どのように作成されたのか、検証を行う必要があるのではないだろうか。

3. 番組メタデータに関する調査・分析

(1) 番組メタデータ提供サービス企業へのヒヤリングから

先述の通り、2011年の東日本大震災及び福島第一原発事故に関するテレビ報道の一定の傾向を知るために、複数の研究で用いられていたのが、民間企業提供のテレビ番組の報道内容に関するデータであった。これらの企業は、日常的にテレビ番組をモニタリングし、その内容に関するメタデータを集積して企業や官公庁にその情報を提供するサービスや、こうしたデータを用いて番組内容を検索して視聴する全録機の販売などを行っている⁽³⁾。

ここではまず、番組メタデータ提供サービス企業へのヒヤリングの結果から、メタデータがどのような意図のもとで作成されているのかを示しておこう。ヒヤリングを行ったのは、株式会社PTP代表取締役社長、有吉昌康氏である⁽⁴⁾。社のホームページによると、2000年に創立したPTPは「ハードディスクレコーダー SPIDER と、SPIDER 上で検索やソーシャルサービスなどを実現するためのクラウド・サービスを開発、販売する。ハードウェアの設計からソフトウェアの開発、クラウドサービスの開発・運用まで一気通貫で全て自社で行う。2007年よりスタートした法人事業では、SPIDER PRO とプロフェッショナル用サービスを提供し、一般企業の広報部、宣伝部だけでなく、中央官庁、地方自治体、放送局、広告代理店など幅広い業界で利用されており、利用企業は約500社・団体にのぼる。(2014年11月時点)」(PTP, 2014)。有吉氏によると、ヒヤリングを行った2016年5月時点で利用企業は約600社・団体となっている。

ヒヤリングではまずPTPでのメタデータの入力体制について尋ねた。有吉氏によれば、当初はエム・データ社の提供するメタデータを使用していたが、それでは顧客からの依頼、例えば企業情報に関する固有名詞の修正などの対応をしきれないため、自社による独自の体制を整えることになった。現在メタデータの輸入は、自社で作成したマニュアルをもとに、一定のトレーニングを積んだアルバイトが行っている。作業は4社の協力企業と自社の計5社、およそ70名で8時間シフトによって行われている。作業分担はまずCMと番組で2つに別れ、さらに1つの番組内のコーナーについて出演者、関連ワード、内容といった形で複数名により分担して書き加えつつ、最後に自社でクオリティ・チェックを行うという形で行われている。

次にメタデータの入力規則について尋ねた。SPIDER PROでは放送局がEPG(電子番組表)で提供する番組情報と、自社で独自に作成した「CM」「コーナー」というデータ項目から、番組やCMを検索しての視聴や、そのデータを取得が可能となっている。ただしこのコーナーのデータは、番組によってその記述量に偏りが見られる。例えば報道番組ではコーナーを分けて詳細な記述がなされているのに対し、ドラマやスポーツ中継では出演者情報など概要的な記述にとどまっている(図1)。またNHK教育テレビについては一部のニュース(手話ニュースなど)を除いてコーナー記述は行われていない。こうした違いがどのような意図から生まれているのか尋ねた。有吉氏によれば、SPIDER PROは法人向けサービスであり、一般企業や官庁の広報や報道対応を行っている部署が顧客の中心で、自社情報がニュースや情報番組でどのように取り扱われているのか、その確認・対応のために使われている。例えば大阪市の橋下徹前市長や東京都の猪瀬直樹元知事などは、自らの発言がどのように取り扱われているのか、チェックして対応を決めていた。こうしたニーズの問題から、顧客に関する最新の情報が出るニュース・情報番組は詳細に輸入し、ドラマやスポーツ中継などについては基本的にはコーナー記述を省略しているとのことである。

図1 SPIDER PRO ジャナルによるメタデータの比較例

<p>【ニュースのコーナーメタデータ例】 [放送局名] NHK 総合1・東京 [番組開始日時] 2016/3/11 12:00 [番組終了日時] 2016/3/11 12:20 [番組名] ニュース [字] [コーナー開始日時] 2016/3/11 12:08 [コーナー長さ (秒)] 155 [内容] <全国のニュース>今後5年間の復興基本方針 閣議決定▼政府は今日の閣議で震災発生から10年間で合わせて32兆円程度の復興予算を確保して、被災地の自立に繋がり地方創生のモデルとなるような復興を実現するなどとし、復興・創生期間と名付けた今後5年間の基本方針を決定した。方針には、東京五輪・パラリンピックなどを復興五輪とし、被災地で聖火リレーなどを行い世界に発信することなどが盛り込まれている。関連ワード：【イベント】東京パラリンピック、【イベント】東京五輪、【施設】福島第一原発（福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22）、【企業】東京電力、【用語】聖火リレー、【用語】復興・創生期間、【用語】東日本大震災、【用語】復興予算 カテゴリ：ニュース [出演者] 【レギュラー出演】高瀬耕造（日本放送協会）、【その他】山本剛史（日本放送協会）</p>
<p>【ドラマのコーナーメタデータ例】 [放送局名] テレビ朝日 [番組開始日時] 2016/3/7 14:59 [番組終了日時] 2016/3/7 15:55 [番組名] 科捜研の女11 #14 [字] [再] [コーナー開始日時] 2016/3/7 15:22 [コーナー長さ (秒)] 335 [内容] <本編3>事件現場に残されていた作業台にあった和菓子とゴミに捨ててあった和菓子の成分を調査した…▼黒い樹海の番組宣伝。 関連ワード：【番組宣伝】黒い樹海 カテゴリ：ドラマ [出演者] 【レギュラー出演】沢口靖子、風間トオル、斉藤暁、長田成哉、栗塚旭、奥田恵梨華、岡田義徳、内藤剛志</p>

またニュースや情報番組などのコーナー区分の基準について尋ねると、まずVTRとスタジオコメントが大きな区分としてあり、連続的な報道内容についても、テロップの変化によってコーナーを区切ることもしていると答えた。ただしどこからどこまでが同一のニュースかの区分も無視しているわけではなく、タイトルテロップなどを記載することで、そのつながりがわかるようにしている。VTRとスタジオコメントを区別するのは、クライアントはVTRだけでなくスタジオでのキャスターやコメンテーターの意見も気にしており、クライアントの中にはスタジオコメントのみを確認したいという要望もあるということだった。またSPIDER PROのメタデータにはコーナー記述の際に取り上げられた地域や企業、商品、用語などの「関連ワード」が記載されているが、これはテロップやフリップ、音声などから明らかになる固有名詞は極力入力する方針によるものである。商品名や企業名の映り込みについては、スポーツ中継での商品や企業ロゴの表示なども含め、広告会社などからの依頼はあるが、ニーズは多くないため行っていない。一方で内容部の記載に際して極力記入者の解釈を排除しており、コメンテーターの感情などは基本的には記入しないことにしている。

こうした入力に関する規則は、クライアントの要望による微調整を除けばこれまで大きく変化しておらず、今後の放送番組の形式が大きく変わるなどがない限り基本的には変化しないと述べていた。

以上のヒヤリングから明らかなのは、SPIDER PROが提供するメタデータが、企業・団体の日

常の報道対応とリスク管理に資する情報の提供を主な目的として作成されているということである。その結果、顧客に関わる情報が示される可能性の高いニュースや、情報番組が詳細に書かれる一方で、ドラマやスポーツ中継、教育番組などの記述が省略されている。またコーナーの区分についても、必要な情報に手早くアクセスするため、VTRとスタジオコメントを分けるなど、利用者の利便性に配慮した区切りとなっている。PTPに限らず、多くの番組メタデータ提供サービス企業も、作成するメタデータの企業による違いはあっても、視聴者一般のニーズというより企業・団体の日常の報道対応とリスク管理に資する情報を提供することが、そのサービスの主な目的であることは同様である。

(2) 番組視聴によるメタデータの検討

① 分析対象と分析方法

上記のヒヤリング結果を踏まえ、ここでは実際にメタデータがどのように作られているのか、具体的に番組の放送内容とメタデータを比較し、その特徴について検討を行う。対象とする番組は、NHKの「ニュースウォッチ9」の2016年3月9日放送分(68分、以下「NW9」と、同じく2016年3月9日放送の、テレビ朝日「報道ステーション」(76分、以下「報ステ」)である。この日は福井県にある高浜原子力発電所の3号機と4号機の運転差し止めの仮処分の決定を、天津地方裁判所が出しており、両番組ともこれがトップニュースとなった(NW9は14分12秒、報ステは5分01秒)。また東日本大震災から5年となる2016年3月11日に向けて、この週は両番組とも連日震災や原発事故に関連した特集番組が組まれており、この日もNW9は南相馬の複合災害について(20分57秒)、報ステは大槌町の復興状況について(9分39秒)の特集が放送された。このように多くの時間を「原発」と「震災」関連のニュース、特集に割いたこの日の両番組は、「震災」「原発」関連報道に関するメタデータの検証に際して、格好のサンプルといえよう。

本稿では、当日の2番組の放送内容から、高浜原発3・4号機の運転差し止めのニュースと、東日本大震災に関する両番組の特集、計49分49秒について、その音声内容とテロップ・フリップを書き起こし⁽⁵⁾、メタデータの該当箇所との比較を行った。まずニュース・特集1本においてメタデータが実際どのように区分されているのか、先のヒヤリングを踏まえて検討を行う。次に要約としてまとめられたメタデータの言葉は、音声やテロップの書き起こしとどのような言語的相違点があるのか、「KH Coder」(樋口, 2014)を用いた言語計量分析を行った。ここから各項目の特徴的語句の析出と、頻出語句による対応分析から、その特徴を検討する。最後に映像との比較からメタデータが何を記述し、何を記述していないのか詳細に検討する。

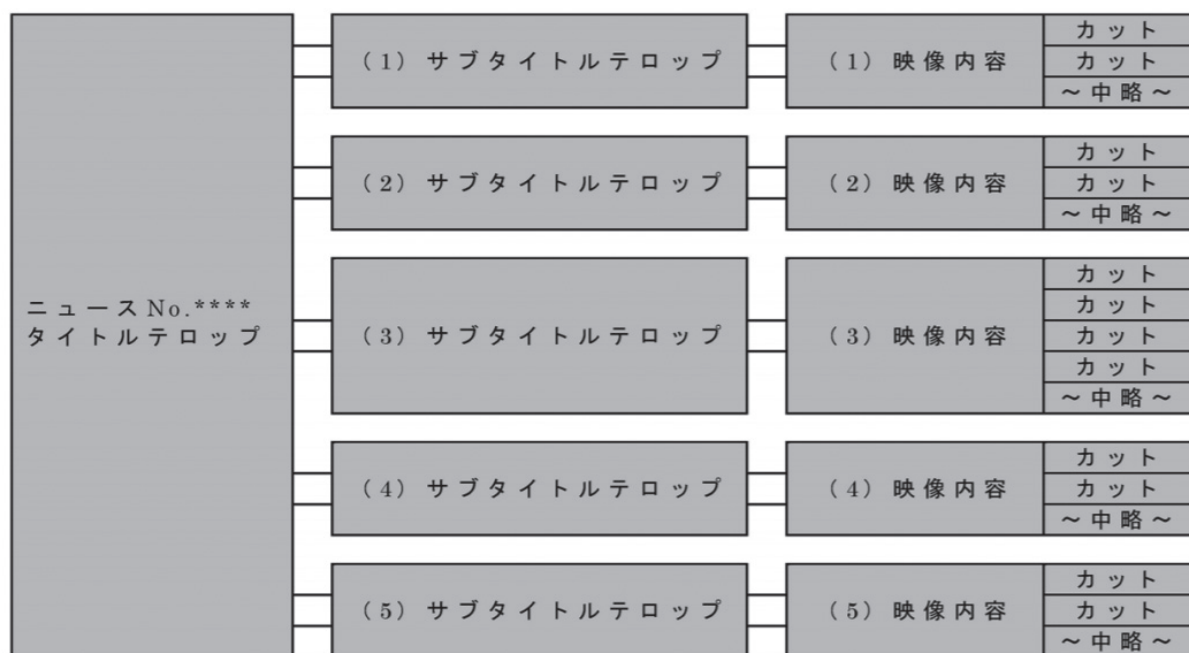
② ニュースの区切りをめぐって

先のヒヤリングでSPIDER PROのメタデータが、ユーザーの利便性を考えて主にVTRとスタジオコメントに区分されていること、VTRの中もテロップの変化などでさらに区分されているとの証言を得た。それを踏まえ分析対象において実際にメタデータがどのように区分したのか検討することにしよう。

ある報道内容に関連する報道量を見る際、そのニュースの本数を数えることは内容分析として一般的といえるだろう。ロンドンオリンピックのニュースの内容分析を行った中正樹らは、NHKと

民放キー局の4社のニュース5番組を対象に、ニュースの本数と時間数からその報道量の調査を行っている(中・日吉・小林, 2015)。中らは、オリンピックスタジオでアナウンサーやキャスターが要約的な説明を始めた際に画面に表示されるテロップをタイトルテロップと呼び、そのニュースをさらに説明する「サブタイトルテロップ」のもと、複数の映像内容が束ねられて1本のニュースを構成するものとして説明している(図2)(中・日吉・小林, 2015)。

図2 ニュース1本の構成



(出典：中・日吉・小林, 2015,155)

この基準で考えると、NW9の3月9日の放送では、「高浜原発3・4号機 運転停止命じる仮処分決定」という1つのニュースが、番組開始冒頭から14分10秒の間放送されたことになる。中身を見ていくと、まず冒頭の1分38秒で「全国初の決定「稼働中の原発ストップ」 どうなる日本の原発」というサブタイトルテロップのもと、高浜原発という稼働中の原発を止めるという、これまでなかった判決が下されたことをトップニュースとして提示している。その後スタジオでアナウンサーの鈴木奈穂子が、「福井県にある高浜原子力発電所3号機と4号機について、大津地方裁判所は、稼働中の原発に対して初めて運転の停止を命じる仮処分の決定を出しました。関西電力は異議を申し立てる方針ですが、今回の決定によってすみやかに原子炉を止めなければならなくなりました」と述べ、「高浜原発3・4号機 運転停止命じる仮処分決定」というタイトルテロップが提示される(30秒)。その後「高浜原発運転停止 大津地裁が仮処分決定 稼働中の原発で全国初」というサブタイトルテロップのもと、VTRで決定した仮処分の内容、関西電力、地元福井県、原子力規制委員会、専門家などのコメントなどを示した後(6分41秒)、スタジオで司法担当記者と原発担当記者の二人による判決の解説が行われる(6分19秒)。⁽⁶⁾

表1 NHK「news watch 9」2016年3月9日放送分
「高浜原発3・4号機 運転停止命じる仮処分決定」メタデータ

長さ (秒)	内容
94	<p><ニュース>全国初の決定“稼働中の原発ストップ” どうなる日本の原発▼福井県にある高浜原子力発電所3号機と4号機の運転停止を命じる仮処分決定を大津地方裁判所が出した。大阪では号外が配られた。菅官房長官は世界最高水準と言われる新規性基準に適合すると判断したもので政府としてその判断を尊重し再稼働を進めるとの方針に変わりはないと記者会見で述べた。 関連ワード：【住所・地域】大阪（大阪）、【住所・地域】高浜町（福井）、【施設】高浜原子力発電所3号機と4号機（福井県大飯郡高浜町田ノ浦1）、【団体】大津地方裁判所（滋賀県大津市京町3-1-2）、【企業】関西電力 人物：菅官房長官 人物（正式名）：菅義偉（自由民主党） カテゴリ：ニュース</p>
439	<p><ニュース>高浜原発3・4号機 運転停止命じる仮処分決定▼福井県にある高浜原子力発電所3号機と4号機の運転停止を命じる仮処分決定を大津地方裁判所が出した。関西電力は意義を申し立てる方針だが、今回の決定によって速やかに原子炉を止めなければならなくなった。滋賀県内の住民29人が去年1月に高浜原発3・4号機の運転停止を求める仮処分を申し立てていた。稼働中の原発の運転停止を命じる仮処分の決定は初めてとなる。住民代表は画期的な決定が出たとコメント。大津地裁は去年4月から住民・電力会社から4回の意見聴取を行った。住民は地震の大きさを過小評価していると主張し、関西電力は安全性に問題はないと反論していた。大津地裁の山本善彦裁判長は、関西電力の方法はサンプルが少なく科学的に異論ないと考えることができず、避難計画についても疑問が残り、安全性の確保について説明を尽くしていないなどとした。関西電力は明日3号機を停止し、仮処分の決定取り消しを求めて異議申し立てを行うと記者会見で明らかにした。▼高浜原発3号機はことし1月に新しい規制基準のもと再稼働したが、仮処分は直ちに効力が発生するため、関西電力は3号機を速やかに止める必要がある。4号機は先月29日に原子炉が自動停止するトラブルがあったが、仮処分で再稼働の時期が見通せなくなった。原発がある福井県高浜町民は理解できない判決だ、危険はあると思うから複雑な心境だなどと語った。福井県の西川知事は立地地域の不信・不安を危惧するもので遺憾に思うとコメント。福島第一原発事故から間もなく5年となるが、仮処分や集団訴訟は約30件にのぼっている。高浜原発の3号機・4号機をめぐるのは、去年4月に福井地裁が再稼働を認めない仮処分決定を出したが、別の裁判長が関西電力の意義申し立てを受けて決定を取り消している。再稼働の審査を行ってきた原子力規制委員会の田中俊一委員長は、どういう理由で仮処分決定が出たか分からないので、安全審査にどう影響するか分からない、世界最高レベルに近づいているとの認識は変える必要はないと思っているとコメント。原発と社会の関係を研究している福島大学の開沼博特任研究員は、実際に動いている営業損害が出るものまで止めるのは相当な根拠がなくてはできないのでそれがあったというのが裁判所の判断だ、安全規制を高めていくことにより広い理解が求められる時代になっていると指摘した。 関連ワード：【住所・地域】滋賀県、【住所・地域】福井県、【住所・地域】高浜町（福井）、【施設】高浜原発の3号機・4号機（福井県大飯郡高浜町田ノ浦1）、【施設】高浜原子力発電所3号機と4号機（福井県大飯郡高浜町田ノ浦1）、【企業】関西電力、【団体】原子力規制委員会、【団体】大津地裁（滋賀県大津市京町3-1-2）、【団体】大津地方裁判所（滋賀県大津市京町3-1-2）、【企業】福島大学、【用語】福島第一原発事故 人物：開沼博特任研究員、田中俊一委員長、山本善彦裁判長、西川知事 人物（正式名）：開沼博（福島大学）、田中俊一（原子力規制委員会）、山本善彦、西川一誠 カテゴリ：ニュース 出演者：【レギュラー出演】鈴木奈穂子（日本放送協会）</p>
319	<p><ニュース>高浜原発 運転停止 大津地裁が仮処分決定 稼働中の原発で全国初▼大津地裁が高浜原発3・4号機の停止を命じる仮処分決定を出したことについて、社会部司法担当の横井記者が解説。稼働中の原発を停止する判断に至った理由を、説明が不十分と解説。大津地裁は安全性の説明を関西電力に求めたが、その説明が不十分だと判断し、原子力規制委員会の安全基準に合格しただけでは不十分だと指摘した。仮処分の特徴は即効性で、関西電力は速やかに原発を止めなければならない。関西電力が異議申し立てを行うと、大津地裁で再び審理が行われることになる。▼大津地裁が高浜原発3・4号機の停止を命じる仮処分決定を出したことについて、科学文化部原発担当の本木記者が解説。関西電力は速やかに原発を停止しなければならず、営業運転をしている3号機は、明日の午前10時頃から出力を落とし、夜の8時頃に停止させる予定。トラブルで停止中の4号機はそのままの状態になる。原子力規制委員会の審査を受けている原発は全国に15原発22機あり、国や電力会社は再稼働を目指す方針に変わりはないとみられるが、今回の仮処分を受けて原発停止を求める動きが各地で活発になる可能性がある。 関連ワード：【施設】高浜原発3・4号機（福井県大飯郡高浜町田ノ浦1）、【団体】大津地裁（滋賀県大津市京町3-1-2）、【企業】関西電力、【団体】原子力規制委員会 カテゴリ：報道特集 出演者：【レギュラー出演】鈴木奈穂子（日本放送協会）、【その他】本木孝明（日本放送協会）、横井悠（日本放送協会）</p>

表1はNW9でのこのニュースに関する内容部と出演者情報のメタデータである。SPIDER PROにおけるコーナーメタデータの1件は、必ずしも中らの言うニュース1本となっていない。このニュースのメタデータは冒頭のVTR（1分34秒）、アナウンサーの冒頭要約とVTR（7分19秒）、スタジオ解説（6分19秒）の3つに分かれており、ヒヤリングでの指摘を裏付けるものとなっている。このメタデータでは「ニュース」と「報道特集」という二つの「カテゴリ」によってVTRとスタジオ解説部が区別されていることがわかる。

表2 テレビ朝日「報道ステーション」2016年3月9日放送分
「稼働中の原発」では初 高浜3・4号機 運転差し止め」メタデータ

長さ (秒)	内容
207	<ニュース> “稼働中の原発”では初 高浜3・4号機 運転差し止め▼滋賀県の住民が高浜原発3/4号機の運転禁止を申し立てた仮処分。大津地裁は運転差し止めを決定した。差し止めはすぐに効力を発揮するため、関西電力は高浜原発3号機を差し止める方針。裁判長は原子力規制委員会の新規性基準がそもそも妥当ではないとした。さらに「避難計画」については国が主導して具体的に早急に策定するように求めた。 関連ワード：【住所・地域】滋賀県、【施設】高浜原発（福井県大飯郡高浜町田ノ浦1）、【団体】原子力規制委員会、【企業】関西電力 カテゴリ：ニュース 出演者：【レギュラー出演】古館伊知郎、【その他】田村信大（朝日放送）
93	<ニュース>スタジオトーク▼原発は立地している地域だけでなく周りの地域、または日本全体に及ぼすものだとことを問いかけたと話した。 カテゴリ：トーク/MC 出演者：【レギュラー出演】ショーン・マクアードル川上、古館伊知郎

次に報ステの高浜原発の運転差し止めのニュースを見ていこう。番組はまず「稼働中の原発」では初 高浜3・4号機 運転差し止め」というタイトルテロップのもと、キャスターの古館伊知郎が「まず最初にお伝えするのはですね、福井県の高浜原発3号機が現在動いていて、4号機は送電というところで警報が鳴って今停止という状態にあるわけですが、この3・4号機に関して、運転差し止めの決定です」という形でニュースを提示し（29秒）、VTRに入る。VTRでは仮処分の決定内容を読み上げるナレーションと共にその決定文が映し出され、その後には弁護団、原子力規制委員会、関西電力の会見を映している（2分57秒）。そしてこの問題についてのキャスターとコメンテーターとのやりとりがスタジオで行われる（1分34秒）。表2のメタデータではやはりキャスターの提示部とVTR（3分27秒）、スタジオでのキャスターとコメンテーターとのやりとり（1分33秒）という二つのコーナーに分かれており、「ニュース」と「トーク/MC」という別々のカテゴリになっていることがわかる。

メタデータの冒頭部はコーナータイトルであり、基本的には内容上の分類やまとまりを山かっこ(<>)で提示し、タイトルテロップやサブタイトルテロップが記載されている。またこのコーナータイトルはCMなどでコーナーが複数にまたがった場合に結びつける役割をしている。ただし表1と表2のコーナータイトル部を見てわかるように、コーナータイトルが必ずしも一致しない場合もあり、「震災」や「原発」といったキーワードで検索を行っても検索から漏れることもある⁽⁷⁾。

このようにSPIDER PROの示すメタデータの1コーナーが、必ずしもひとまとまりのニュースを意味しないことが明らかとなった。そのため、従来の内容分析をこうしたメタデータをそのまま応用することには慎重になる必要がある。ただし、SPIDER PROなどのメタデータがニュースやワイドショー、情報番組などにおけるコーナー区分の仕方に一貫性が認められるのであれば、キー

ワードにかかったコーナー数の推移が、長期的なスパンに立った報道量の推移を見る上で有益なデータであることは確かであろう。

② メタデータの言語的特徴

次にメタデータがどのような言語的特徴を持つのか、KH Coder（樋口, 2014）を使用して、音声文字起こししたものと、テロップとフリップを記録したもの（以下「テロップ」）との比較から明らかにしていく。表3は分析対象における総文字数、総抽出語数、異なり語数を示したものである。

表3 分析対象の語数

	NW9 (35分09秒)			報ステ (14分40秒)		
	音声	テロップ	メタデータ	音声	テロップ	メタデータ*
総文字数	10076	3012	3866	4328	2088	535
総抽出語数	6289	1862	2430	2670	1337	334
異なり語数	985	587	527	704	470	175

*報ステのメタデータは震災特集箇所のスタジオトーク部分（94秒）なし

表4 各項目の特徴語句の検出

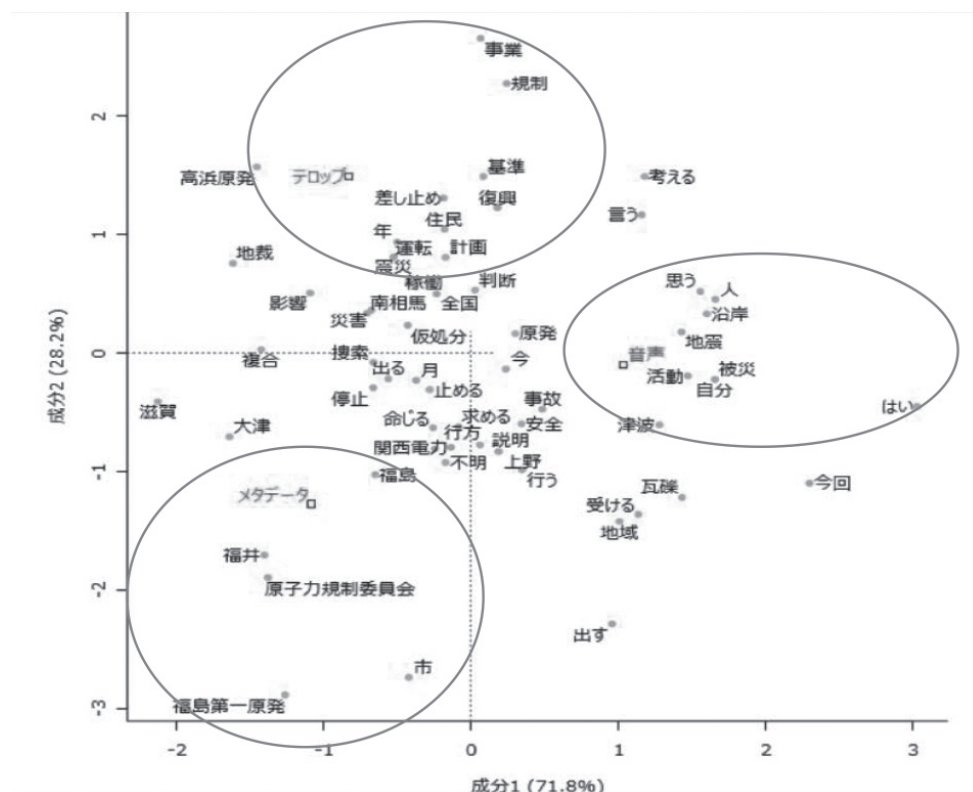
メタデータ		音声		テロップ	
字	.455	原発	.159	高浜原発	.081
大字	.455	決定	.138	地裁	.053
北原	.455	はい	.138	午後	.038
大熊	.455	思う	.135	中継	.025
東日本大震災	.455	津波	.122	現実	.025
夫沢	.455	仮処分	.109	町民	.017
ニュース	.429	事故	.100	平成	.013
双葉	.385	今	.098	4月	.013
大飯	.364	人	.093	お茶	.013
田ノ浦	.364	関西電力	.084	平野	.013

ここから番組内容の差ではなく、メタデータ、音声、テロップという3つの項目の特性を見るため、両番組を統合してそれぞれの項目に特徴的な語句をKH Coderを用いて検出した（表4）。ここからSPIDER PROのメタデータには、音声やテロップではあまり登場しない特徴的な語句があることがわかる。SPIDER PROのメタデータでは、関連ワードとして映し出された施設や団体の住所が記載されている。そのため福島第一原発の所在地（福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原）を示す語句など、場所を表す語が特徴的な語句として現れることになる。ここからメタデータが実際の放送では表示されない場所に関する独自情報を記載していることがわかる。一方でメタデータ上

には応答を示す「はい」や、「思う」といった会話で示される動詞など口語的語句や、テロップによく示される「中継」や「地裁」といった場所や状況を指し示す語句があまり登場しないことがわかる。

メタデータにおけるこうした特徴を、頻出語句の使用傾向からさらに見ていこう。KH Coderを用いて総出現数15回以上の65語から差異の顕著な60語を使用し、各項目に関する対応分析を行った(図3)。「メタデータ」「音声」「テロップ」それぞれに特徴的な語句が集まっていると思われる場所をマルで囲った。ここでもメタデータに特徴的な語句として「福井」や「福島」といった場所を示すものが示されているが、それに加えて「福島第一原発」や「原子力規制委員会」といった関連ワードとして表示されている語も登場している。このようにヒヤリングで語られたメタデータでの固有名詞の意識的な記載という点が、分析の上でも裏付けられることとなった。

図3 各項目の対応分析



一方で音声上では「地震」や「津波」といった言葉が繰り返し用いられる傾向がある。例えばNW9での高浜原発の運転差し止めのニュースでは、「今回の仮処分の決定はどのように判断されたのか。大津地裁は、去年4月から、4回にわたって住民と電力会社から意見を聞いていました。この中で住民は、『地震』の揺れが想定が不十分で、起こりうる『地震』の大きさを過少評価しているなどと主張。一方関西電力は、厳しい想定で対策を講じており、安全性に問題はないなどと反論していました。今回の決定で、大津地裁の、山本善彦裁判長は、関西電力の『地震』の最大の揺れを評価する方法は、サンプルが少なく、科学的に異論のない方法と考えることはできないと指摘しました」というナレーションが判決内容の解説としてなされているが、このなかで「地震」という

言葉が3回用いられており、判決が地震をめぐる関西電力の評価と対策の不備をついたものであることが強調されていることが見えてくる。また「テロップ」に近い場所にある「差し止め」という語は、報ステで「稼働中」では初めて 高浜原発 運転差し止め」というタイトルテロップが提示されたことで、繰り返し表示されることになった。このようにテロップや音声からは番組が何を強調したいのか、その傾向がメタデータよりも明瞭に示されていると考えられる。

③ 映像からわかるメタデータの特徴

ここではより詳細にメタデータを音声内容、テロップ（文字情報）、映像内容と比較し、メタデータが何を記述し、何を記述していないのか仮説的に提示していく。表5はNW9の冒頭映像について、音声、テロップ、映像内容を記述し、メタデータと比較したものである。メタデータと対応していると思われる個所は太字とした。⁽⁸⁾

表5 NW9冒頭 (94秒) における記載内容比較 (太字メタデータ対応部)

音声内容	テロップ (文字情報)	映像内容
<p>ナレーター「雨の中走ってきて掲げたのは、原発の再稼働差し止めの文字でした。」 女性「よかったー。」 男性「号外です。朝日新聞の号外です。朝日新聞の号外出ました。どうぞ。」 大坂市民インタ(女)「原発を動かすってことに関しては、やはり一抹の心配がありますもんね。そういう意味でストップは良かったなど。」 大坂市民インタ(男)「原発反対とは言ってますけど、じゃあ原発がなくなって、あの、電気代が上がった時、そっちも結構大変だなどと思うんです。」 ナレーター「福井県にある高浜原子力発電所3号機と4号機。その運転停止を命じる仮処分の決定を、大津地方裁判所が出したのです。稼働中の原発にストップを命じるという初めての決定に」 菅官房長官「世界最高水準と言われる新規制基準に適合する、という判断をされたものであってですね、政府としてはその判断を尊重して、再稼働を進めるという方針に、これ変わりはありません。」 「やった〜」(歓声) ナレーター「東京電力福島第一原発事故から間もなく5年。今後の原発を巡る動きにどのような影響を与えるのでしょうか。」</p>	<p>news watch 9 (ロゴ) 大津地裁前 午後3時半すぎ 全国初の決定 (タイトルテロップ) “稼働中の原発ストップ” どうなる日本の原発 (サブタイトルテロップ) 大阪 原発を動かすことには一抹の心配がある そういう意味でストップは良かった 原発反対と言うが、原発がなくなって 電気代が上がった時大変だと思う 高浜原発 福井 高浜町 “運転停止命じる” 仮処分決定 菅官房長官 (原子力規制委員会が)世界最高水準と言われる新規制基準に適合すると判断したもので 政府としてその判断を尊重し再稼働を進めるという方針に変わりはない 今後 日本の原発は？</p>	<p>[大津地裁前] 走ってくる弁護団の男性 「いのちとびわ湖を守る 運転差し止め決定!」「再稼働差し止めの 画期的決定!」の垂れ幕 判決に喜ぶ女性 (BS) 判決に喜ぶ二人の女性 (BS) [大阪] 号外が配られる 号外を配る男性 女性の手にとられた号外 原発停止を肯定的に捉えるインタビュイーの女性 原発停止を否定的に捉えるインタビュイーの男性 [高浜原発] 高浜原発 (空撮) 高浜原発 (空撮) 高浜原発 (地上から) [官邸] 記者会見壇上に向かう菅官房長官 判決について答える菅官房長官 「いのちとびわ湖を守る 運転差し止め決定!」「再稼働差し止めの 画期的決定!」の垂れ幕 高浜原発 (空撮)</p>
<p>【メタデータ】 <ニュース>全国初の決定 “稼働中の原発ストップ” どうなる日本の原発▼福井県にある高浜原子力発電所3号機と4号機の運転停止を命じる仮処分決定を大津地方裁判所が出した。大阪では号外が配られた。菅官房長官は世界最高水準と言われる新規制基準に適合すると判断したもので政府としてその判断を尊重し再稼働を進めるという方針に変わりはないと記者会見で述べた。 関連ワード：【住所・地域】大阪 (大阪)、【住所・地域】高浜町 (福井)、【施設】高浜原子力発電所3号機と4号機 (福井県大飯郡高浜町田ノ浦1)、【団体】大津地方裁判所 (滋賀県大津市京町3-1-2)、【企業】関西電力 人物：菅官房長官 人物 (正式名)：菅義偉 (自由民主党) カテゴリ：ニュース</p>		

これをみるとメタデータがテロップやフリップなどの文字情報に多くを拠っていることがわかる。タイトルテロップやサブタイトルテロップ、要人とその発言など、文字情報がメタデータ入力に利用されていることが見て取れる。これは先ほど示した図3の頻用語による対応分析での、全体の71.8%を構成する横軸の成分1の位置で、メタデータとテロップが似通った位置にあることとも符合するものである。音声内容はこれを補足する形でメタデータに使用されており、コメント時などには音声内容から選択する形で要約が行われている（資料）。

一方で映像内容については、テロップでも示されている場所に関する内容を除けば、ほとんど記載されていないようであり、例えば運動側の「いのちとびわ湖を守る 運転差し止め決定!」「再稼働差し止めの 画期的決定!」といった垂れ幕はメタデータには残されていない。また表情などから読み取れる発話者の感情なども、言語化されない限り記録に残されることはない。これに加え、人物がテロップや音声などで示されていない、匿名の人物についてもメタデータに掲載されにくく、大阪での街頭インタビューも省略されている。

これらの内容も、メタデータ入力の際には記入者の解釈を極力排除し、表情などから感情を読み取るようなものは極力避けられているという、ヒヤリングでの証言を裏付けるものである。その一方で、テレビの本質が「一瞥にある」（小林直毅, 2005）ことを踏まえるならば、ニュースをはじめ多くのテレビ番組が、その意味内容を大まかに理解するだけであれば、そこに何が映っているのかという、映像への注視がなされなくてもその視聴が成立するような表現様式となっているともいえる。

4. まとめと考察

本稿では企業が提供するテレビ番組のメタデータを活用して、放送アーカイブ研究を行うにあたり、企業側がどのような意図に基づいてメタデータを作成しているのか、またメタデータは企業側の意図がどのように反映されているのか、さらにメタデータという文字メディアがマルチモダルな記号によって成立するテレビ番組の内容をどのように要約するのか検討した。結果PTP社の提供するメタデータが、企業・団体の日常の報道対応とリスク管理に資する情報を提供することが主な目的として作成されており、必要な情報に手早くアクセスするため本来のニュースとしての認識では分割されないVTRとスタジオコメントを分けるなど、利用者の利便性に配慮した区切りとなっていた。また内容としては検索のフックをつける目的から、固有名詞を多く記録し、しかも施設などについては住所なども付加されていた。また記録の確実性から記述が不一致となりやすい映像の説明よりも、テロップや音声情報による内容要約がその中心であった。

ここまでの議論を踏まえ、もう一度「メタデータ」とりわけ「テレビ番組のメタデータ」について考えておこう。テレビは「震災」や「原発」など、様々な事象に関わる出来事を、一定の意味に沿って構成していく。企業が提供するテレビ番組のメタデータは、このような出来事を構成したテレビを見ながら、マニュアル化された項目内容を記入する、複数のアルバイトによって作成され、重ねられていく、「テレビをめぐる記録物」である。それは顧客の欲する情報を効率よく収集できるように作られており、特定の意図を持った記録物でもある。そのため、テレビ番組のメタデータはそれ自体、知的資源であるテレビ番組とは異なる自律的意味を持つ、知的資源なのである。

この自律性を持った知的資源であるテレビ番組のメタデータは、独自の記述スタイルを持ちつつ

も、テレビ番組へのアクセスを可能とする、インデックスとしての役割を持つことは言うまでもない。メタデータは確かに映像そのものについて記述してはいないかもしれないが、「震災」や「原発」といった言葉から紐づけられた記述されない映像へのアクセスを可能とするのはこうしたメタデータであり、「震災」や「原発」にまつわる映像が、一定のボリュームを持ってその番組、そのニュースの中に現れている可能性を提示するのもメタデータである。例えば SPIDER PRO のメタデータが、映像として映し出された場所を提示していることで、「震災」「原発」にまつわる場所との出会いを可能とするのである。⁽⁹⁾

一方でメタデータがあるニュースを「震災」や「原発」というキーワードから検出した時、「震災」「原発」報道とは何か」という問いが浮上する。そして同時に、「震災」あるいは「震災」に関する映像として何を名指すのかという問いも生まれる。例えば 2011 年の 3 月から月日が経つ中で、「東日本大震災」にまつわるニュースとして、被災地における人口減少の加速化という問題が取り沙汰されているが、こうした問題は 2011 年 3 月以前から東北地方を始めとする各地で問題となっていたものであり、震災はまさにそれを「加速化」させたに過ぎない。一方で「南相馬」や「陸前高田」や「釜石」からのニュースに、「震災」という言葉が現れなかった時、例えば「南相馬市でドローンの自力飛行実験が行われた」というニュースは、「震災」報道と捉えるべきなのだろうか。時間の経過のなかで、常に東日本大震災との関係で捉えるべきか否かの判断には両義的な意味合いを孕むこととなる。長期的な「震災」「原発」報道の研究を継続する上では、メタデータにおける「震災」や「原発」と「被災地」をめぐる出来事のアートキュレーションの問題が、一つの課題として浮上することになるだろう。今後もメタデータそのものの特性に注視しつつ、メタデータが示す「震災」「原発」報道の意味について考えていくことが必要である。

- (1) 本稿は 2016 年 10 月 29 日に帝京大学で行われた日本マス・コミュニケーション学会 2016 年度秋季研究発表会ワークショップでの報告資料をもとに作成している。またワークショップでの討議にも多くの示唆を得た。
- (2) ここであげた研究は、松山秀明 (2013) による文字放送データ (NII の研究用テレビアーカイブシステム) を利用した研究以外は企業による番組データの提供を受けたものとなっている。
- (3) 企業や官公庁などに CM も含めたテレビ番組の情報を提供する企業として、ニホンモニター株式会社や、株式会社プロジェクト、株式会社エム・データ、JCC 株式会社などがある。
- (4) ヒヤリングは 2016 年 5 月 19 日、PTP 社会議室にて行われた。ヒヤリングに同席したのは筆者のほか、大井眞二、原由美子の 3 名。
- (5) 音声内容等の入力に際し、日本大学法学部の学生 2 名の協力を得た。
- (6) なお本文中で提示した時間とメタデータが示す時間が異なっているが、これは独自に時間を記録したものと、メタデータの記録との誤差のためである。
- (7) 今回対象とした 3 月 9 日放送の報ステのメタデータでも、震災特集箇所のスタジオトーク部分 (94 秒) が「震災」や「復興」といったキーワードでの検索から見つけ出すことが出来なかった。
- (8) 同様に資料として高浜原発関連ニュースにおける両番組のメタデータと、スタジオ解説、スタジオコメント部の音声やテロップとの比較を最後に付した。
- (9) ただし、メタデータが示すのはあくまで「可能性」であることは忘れてはならない。先述の通りメタ

データはその放送において何が映されたのか、つまり「震災」「原発」報道における映像内容については、視聴によって確認されるべきものである。そのため、メタデータのみであたかも映像そのものを確認したかのように結論付けることは厳に慎むべきであろう。

文献

- 遠藤薫 (2012) 『メディアは大震災・原発事故をどう語ったか—報道・ネット・ドキュメンタリーを検証する』 東京電機大学出版局
- 原由美子 (2015) 「震災後3年間 テレビ番組で何が伝えられてきたのか—ドキュメンタリー番組に描かれた被災者・被災地」『NHK放送文化研究所年報2015』 p7-p47
- 樋口耕一 (2014) 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』 ナカニシヤ出版
- 堀池博巳・吉田暁史 (2003) 「ネットワーク情報資源の組織化 (グループ研究発表, <特集> 第44回研究大会)」『図書館界』 55号 (2), p94-p100
- 石田佐恵子・岩谷洋史 (2012) 「テレビ映像資料の収集と保存に関する実践的研究—311 テレビ番組アーカイブの事例から」『人文研究』 63号 p109-p132
- 稲増一憲・柴内康文 (2015) 「テキストデータを用いた震災後の情報環境の分析」池田謙一編『震災から見える情報メディアとネットワーク』 東洋経済新報社 p47-p84
- 加藤徹郎 (2015) 「生活情報番組における「放射」報道の変化—報道番組アーカイブのメタ・データよりみる人為時事性の考察」『サステナビリティ研究』 5号 p145-p162
- 小林直毅 (2005) 「環境としてのテレビを見ること」田中義久・小川文弥 (編) 『テレビと日本人—『テレビ50年』と生活・文化・意識』 法政大学出版局 p127-p169
- 松山秀明 (2013) 「テレビが描いた震災地図—震災報道の「過密」と「過疎」」丹羽美之・藤田真文編『メディアが震えた = The Media Quaked: テレビ・ラジオと東日本大震災』 東京大学出版会 p73-p117
- 中正樹・日吉昭彦・小林直美 (2015) 「ロンドンオリンピック開催期間における日本のテレビニュース報道に関する内容分析」『ソシオロジスト—武蔵社会学論集』 17号 (1), p147-p182
- 西田善行 (2015) 「テレビが記録した「震災」「原発」の3年—メタデータ分析を中心に」『サステナビリティ研究』 5号 p125-p143
- 西田善行 (2016) 「「史資料」としてのテレビ報道—環境報道アーカイブの取り組みから」『社会政策』 7巻3号 p68-p78
- 三浦伸也 (2012) 「311 情報学の試み—ニュース報道のデータ分析から」高野明彦・吉見俊哉・三浦伸也『311 情報学—メディアは何をどう伝えたか』 岩波書店 p33-p118
- PTP (2014) 「株式会社 PTP About」株式会社 PTP ホームページ (<http://www.ptp.co.jp/about/>) 2017年1月9日閲覧
- 谷口祥一・緑川信之 (2016) 『知識資源のメタデータ 第2版』 勁草書房

資料 記載内容比較 (太字メタデータ対応部)

【NW9 スタジオ解説 (94 秒)】

音声内容	テロップ (文字情報)
<p>鈴木奈穂子「はい。ではここからは、司法担当の横井記者と、原発取材を担当している本木記者とともにお伝えしていきます。まずは横井さん。あの、稼働している原発に停止を命じるという、今回初めての決定になったわけですが、この判断に至った理由を、一言でいうとどうということになりますか。」横井記者「はい。キーワードはこちらになります。」鈴木「はい。」横井「説明が不十分。」鈴木「はい。」横井「裁判所は、原発が安全だということについて、関西電力の説明が、不十分だと判断しました。裁判所は、住民側が原発の安全性が確保されてないと訴えたことを受けて、安全性の証明を関西電力に求めました。」鈴木「はい。」横井「この中でですね、原子力規制委員会が策定した、新しい規制基準に合格しただけでは安全だという証明としては不十分だと指摘したんです。」鈴木「はい。」横井「そのうえでですね、想定される最大規模の地震の揺れ、基準地震度についてや、設備面の事故対策など、それぞれの争点について、え～関西電力が、十分に説明を尽くしたかどうかを、検討した結果、事故を防ぐには不十分だと結論付けました。」鈴木「う～ん。であの、今回のその決定は、判決ではなくて、仮処分ということなんですよ。」横井「はい。」鈴木「はい。この仮処分というのは、どういう特徴があるんですか。」横井「はい。」鈴木「はい。」横井「こちらをご覧ください。」鈴木「はい。」横井「こちら、仮処分の特徴としてはですね、え～決定の効力がすぐに生じる、まあ即効性があることなんです。」鈴木「はい。」横井「今回の決定でもですね。え～速やかに、関西電力は原発の運転を止めなくてはなりません。正式な裁判との違いは、この点なんです。」鈴木「はい。」横井「裁判の場合、判決が出ても控訴すれば通常はすぐに効力は生じません。仮処分の決定に対してはですね、双方が異議申し立てや、抗告などを行うことができますので、その過程で、取り消されなければ決定の効力は、続きます。」鈴木「はい。」横井「で逆にですね、決定が覆れば、仮処分の効力は失われますので、その時点で関西電力は高浜原発の3号機と4号機を再稼働できるということになります。」鈴木「そうですね。そうしますと今後の司法の争いというのはどうなっていくのでしょうか。」横井「はい。関西電力は今日の決定の取り消しを求めて、異議申し立てを行えば、再び大津地方裁判所で決定が妥当かどうかの審議が行われます。今回の決定は、まあ専門家によっても評価も分かれていまして、まあ今後の審議で、どのような判断が示されるかは見通せません。今後の司法判断に引き続き注目していきたいと思います。」鈴木「はい。続いて本木さんに聞いていきますが」本木「はい。」鈴木「まあ今回の仮処分を受けて、関西電力としては原発を速やかに止めると、いうことになるわけですね。」本木「そうですね。あの関西電力は、今後速やかに不服申し立ての手続きを行うというふうなコメントはしているんですけども」鈴木「ええ。」本木「ただ、まあ仮処分の決定はすぐ効力が生じますので、え～すでに営業運転に入っている3号機については、明日の午前10時ごろから徐々に原子炉の出力を落としていきまして、え、夜の8時ごろに停止させる予定になっています。」鈴木「はい。」本木「え～もう一方でトラブルで停止している4号機の方は、まあそのままの状態になります。」鈴木「う～ん。まあ原発再稼働の動きというのは、高浜原発以外にも各地で相次いでいるわけですが、まあ今回のこの仮処分の決定というのは、どういう影響を今後与えそうでしょうか。」本木「そうですね。あの現在原子力規制委員会の、審査を受けている原発というのがですね、全国に15原発22機あるんですが」鈴木「はい。」本木「国や電力会社は、引き続き再稼働を目指すですね、方針に変わりはないとみられています。」鈴木「はい。」本木「まあ一方で、今日の決定を受けまして、仮処分を通じて原発の停止を求める動きというのが、今後各地でより活発になることも予想されます。」鈴木「そうですね。あの～今回の仮処分の決定、こう、どのように受け止めたらいのかという、疑問があるんですが、そこはどうでしょうか。」本木「そうですね。」鈴木「ええ。」本木「あの新しい規制基準というのは、そもそも福島第一原発の事故を教訓に作られました。」鈴木「はい。」本木「重大事故の対策を義務付けて、地震や津波の、対策を強化するなど、まあ、その内容についてはですね、規制委員会も世界最高水準だとしています。」鈴木「はい。」本木「これに対して今回の決定というのは、まあ、それでも国民の間では、十分に安全性が確保されたとは必ずしも納得していないと、いったことを突き付けられた形になりました。」鈴木「はい。」本木「え～、事故を経て原発の安全に対する国民の、考え方というのは大きく変わっています。まあ決定の中で繰り返し、関西電力の説明不足が指摘されていますように、原発にどこまでの安全性を求めるべきか、何をもちえて安全というのか、この点について一部の専門家だけではなく国民全体の議論が必要だと思いました。」鈴木「はい。ここまで横井記者、そして本木記者とともにお伝えしました。高浜原発の運転停止を命じる仮処分の決定についてお伝えしました。」</p>	<p>高浜原発 運転停止 (タイトルテロップ) 大津地裁が 仮処分決定、稼働中の原発で全国初 (サブタイトルテロップ) 横井悠 (社会部司法担当)本木孝明(科学文化部) 原発担当)説明が不十分(フリップ) 判断の理由は 仮処分の特徴は? 即効性(フリップ) 「仮処分」の効力 関西電力本店 今後の行方は 高浜原発いつ停止? “仮処分”影響は 大津地裁</p>

【メタデータ】 <ニュース>高浜原発 運転停止 大津地裁が仮処分決定 稼働中の原発で全国初▼大津地裁が高浜原発3・4号機の停止を命じる仮処分決定を出したことについて、社会部司法担当の横井記者が解説。稼働中の原発を停止する判断に至った理由を、説明が不十分と解説。大津地裁は安全性の説明を関西電力に求めたが、その説明が不十分だと判断し、原子力規制委員会の安全基準に合格しただけでは不十分だと指摘した。仮処分の特徴は即効性で、関西電力は速やかに原発を止めなければならない。関西電力が異議申し立てを行うと、大津地裁で再び審理が行われることになる。▼大津地裁が高浜原発3・4号機の停止を命じる仮処分決定を出したことについて、科学文化部原発担当の本木記者が解説。関西電力は速やかに原発を停止しなければならず、営業運転をしている3号機は、明日の午前10時頃から出力を落とし、夜の8時頃に停止させる予定。トラブルで停止中の4号機はそのままの状態になる。原子力規制委員会の審査を受けている原発は全国に15原発22機あり、国や電力会社は再稼働を目指す方針に変わりはないとみられるが、今回の仮処分を受けて原発停止を求める動きが各地で活発になる可能性がある。 関連ワード：【施設】高浜原発3・4号機（福井県大飯郡高浜町田ノ浦1）、【団体】大津地裁（滋賀県大津市京町3-1-2）、【企業】関西電力、【団体】原子力規制委員会 カテゴリー：報道特集 【レギュラー出演】鈴木奈穂子（日本放送協会）、【その他】本木孝明（日本放送協会）、横井悠（日本放送協会）

【報ステスタジオトーク部 (93秒)】

音声内容	テロップ (文字情報)
<p>古館「はい、あのショーンさん、地元高浜の方で原発ありきで経済活動をずっとやってこられた方含めてですね、こういうことになると困るといのは、当然想定・想像できるのですが、ちょっと視野を変えてみると、こういうことは大事だと思うんですね。」</p> <p>ショーン「そうですね、今回の司法の判断は、一つは、今ご指摘にあったように、その人知の限界ということが一つと、人格権の尊重ということは非常に重要なことを言っていたと思いますし、またその立地外の地域、その隣接する自治体、ひいては、原子力災害がひとたび起こってしまえば、地元を越えて隣接の自治体あるいは日本全体の問題なのだというような、非常に重要な問いかけを改めて判断としてしたんだと思うんですよね。」</p> <p>古館「あの、大飯原発のときだったと思うんですけど、非常に印象に残っていて、裁判長がその多数の人の生存権にかかわる権利と、電気代が高い低いの問題を並べて論じるなどということをはっきり書いていたのを覚えているんですね。やっぱりそれは大事な視点・考え方だと思いますし、それから去年の福井地裁の差し止めに関しても同じ裁判長でいらっしゃいますけど、その人は、人事異動しちゃってるんですよね。まあ、それはどうしてかは私の想像でしかないわけですけど、やっぱりこうやって今回の差し止めのように、今おっしゃるように、ごくごくまっとうなことをおっしゃっている裁判長の方はぜひ人事異動しないでほしいと思います。」</p>	<p>“稼働中”では初めて 高浜原発運転差し止め (タイトルテロップ)</p> <p>経営コンサルタント ショーン・マクアードル川上 企業の戦略コンサルティングに従事 テレビ、ラジオの経済番組に出演多数</p> <p>滋賀・大津地裁 午後3時半すぎ</p> <p>福井・高浜原発 高浜原発4号機緊急停止時の様子 先月29日</p>
<p>【メタデータ】 <ニュース>スタジオトーク▼原発は立地している地域だけでなく周りの地域、または日本全体に及ぼすものだとことを問いかけたと話した。 カテゴリー：トーク/MC</p> <p>【レギュラー出演】ショーン・マクアードル川上、古館伊知郎</p>	